

4 具体的な取組みの内容

関係を豊かにする

「つながりの構築」、「見守り活動の推進」、「誰もが集える場の拡充」に取り組むことで、関係を豊かにします。

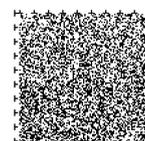
なお、外国人や性的少数者などの多文化共生や多様性を認める視点、人と人とのつながりを重視する自殺対策の視点ももって、取組みを進めます。

(1) つながりの構築

【支え合う意識やつながりの希薄化】に対応するため、隣近所などの地縁を同じくする人々や、NPO・ボランティアなどの目的を同じくする人々はもとより、興味・関心を同じくする人々などのつながりの構築に取り組めます。

地域住民等ができること

- 隣近所の関係を大切にし、困っている人に声をかけ、お互いに支え合います。
- 自分の住む地域や活動について関心をもちます。
- 様々な集まりや行事・活動に積極的に参加します。
- 自治会に加入し、周囲の人にも加入を勧めます。
- 支え合い推進会議の開催や校区福祉活動計画づくりに努めます。
- それぞれの団体が行っている活動や取組みを周知します。
- 社会福祉法人・学校・事業所等は、集える場の提供や助言を行うように努めます。



個別課題から地域の支え合いを考える

浮島校区では、認知症の人が一人で外出し道に迷う事例が起き、今後も増加していく心配がありました。地域でどのように対応していけば良いか、支え合い推進会議で話し合い、まずは、地域住民が認知症を正しく理解する必要があるという意見から、認知症講座や認知症声かけ訓練が開催されました。

講座では、認知症の正しい理解はもとより、「大丈夫よと寄り添うなど、周囲の接し方を変えることで症状が改善する」、「大事なことは、認知症を治すことよりも、認知症の人と“ともに生きる地域や社会”である」との話がありました。

また、認知症声かけ訓練の参加者からは、「道端で少し気になる人がいたら、勇気はいるけれど声をかけて助けてい」という声があがるなど、認知症への理解が進み始めています。

支え合い推進会議では、ともに支え合う地域をめざして、地域の実情に応じた様々な取組みが進められています。



声かけ訓練の様子

「やってみたい」「これ楽しい」から始まる気づき

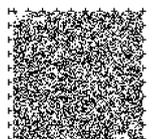
久留米市内の複数の校区で、様々な年代の人が集まり、自分たちが住む地域のことについて話し合うラボ会が開催されています。何気ない会話から、これやってみたいねとワクワクする日もあれば、参加者の思いがけない悩みに涙する日もあり、地域ならではの情報交換が行われています。

そんな中、小森野ラボ会では、「小森野校区だけで生活できるといいね」、「散歩の途中で立ち寄れる本屋さん、パン屋さんがあるといいね」などの声があり、そこから地域の飲食店と連携した“こもりのマルシェ”が企画されました。みんなで朝ごはんを食べたり、リサイクルブック市を開いたり、みんなで話したことが実現されました。



様々な年代の人が集まるラボ会

人が集まり、つながったことで、新たな取組みが生まれ、今まで地域との関わりが少なかった人たちが、地域に興味をもち、地域について考えるきっかけとなっています。

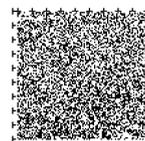


久留米市社会福祉協議会が取り組むこと

- 支え合う意識の普及・啓発を図り、地域住民等それぞれが役割をもち、様々な人と出会い、交流できるようなきっかけづくりを進めます。
- 支え合い推進会議をとおして、校区コミュニティ組織の区域ごとの各団体の活動や課題について共有し、団体の連携を進め、困っている人と支援者の関係づくりを進めます。あわせて、多様な団体とも連携し、地域課題の解決の取り組みを進めます。
- 課題を抱える当事者同士や地域住民同士の緩やかなつながりづくり、社会資源の発見や創出を支援します。
- 各校区の実情に則した活動が行われるよう、この計画の趣旨を踏まえ、校区福祉活動計画づくりや見直しなどを支援します。
- NPO・ボランティア、当事者組織などが活動する際の課題が解消されるよう、各団体の相談を受けたり、合同の学習会を開催したりするなどして、連携できる関係づくりを促し、活動が継続・発展できるよう支援します。

久留米市が取り組むこと

- 支え合う意識を普及・啓発するための広報や多様な人々が出会い、交流する各種研修などを実施します。
- 日頃からの近所付き合いや自治会の必要性の周知、自治会への加入促進、地域行事や地域活動等に関する情報提供、支え合い推進会議への支援などを行い、隣近所などの地縁を同じくする人々のつながりの構築に取り組みます。
- 久留米市市民活動サポートセンター^{※1}や久留米市社会福祉協議会ボランティアセンター^{※2}などと連携し、NPO・ボランティアなどの活動を周知し、交流できる機会を設けることで、目的を同じくする人々のつながりの構築に取り組みます。
- 包括的支援体制構築事業^{※3}などをとおして、興味・関心を同じくする人々のつながりを含む、人々の緩やかなつながりの構築に取り組みます。



知り合うことで、活動が活発に

様々な分野で活動する市民活動団体と久留米市、久留米市社会福祉協議会とで、市民活動の活性化に向けて意見交換会を行いました。

久留米市や久留米市社会福祉協議会の施策のいいところ、足りないところ、今後必要な視点など、様々な意見が発表されました。

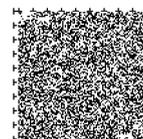
意見交換の目的は、今後の市民活動の活性化施策でそれぞれの団体の強みは何かを考えていくことでしたが、それ以外にも市民活動団体の皆さんが顔見知りになるきっかけとなりました。

自分の団体の悩みごとが他の団体が以前悩んだことだったり、自分の団体の不得意なこと、他の団体の得意なことだったり、団体同士が知り合うことで自分たちの活動を見直すことができ、市民活動の活性化につながります。



意見交換会の様子

-
- ※1 久留米市市民活動サポートセンター：NPO・ボランティアの交流やネットワークづくりをはじめ、情報収集・発信、イベントや会議、作業の場の提供、相談への対応など、市民活動の活性化を図る機能をもつ施設。
 - ※2 久留米市社会福祉協議会ボランティアセンター：各種ボランティア講座開催やボランティア活動の紹介、支援を必要としている人へのボランティアの調整などの機能をもつ施設。
 - ※3 包括的支援体制構築事業：社会福祉法第106条の3の規定に基づき、地域住民等主体的に地域生活課題を把握し、解決を試みることができる地域づくりや、現状では適切なサービスを受けることができない様々な対象者を包括的に受け止める相談支援体制を構築しようとする事業。



(2) 見守り活動の推進

【支え合う意識やつながりの希薄化】、【相談しづらいこと】、【情報が適切に入手できていないこと】に対応するため、早期の課題発見や支援につながるよう、あいさつや声かけを行うなど、見守り活動の推進に取り組みます。

地域住民等ができること

- あいさつや声かけを行います。
- 異変に気づいたら、適切な相談先へ連絡します。
- くるめ見守りネットワークや見守り訪問活動などに参加するよう努めます。
- あいさつ運動や声かけ運動の促進に努めます。
- 身近な地域での見守り活動を進めます。
- 地域活動等を通じた気づきや見守りを進めます。
- 社会福祉法人・学校・事業所等は、くるめ見守りネットワークに協力します。

安全で安心して暮らせるまちに



地域を見守っている青パト

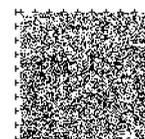
自分たちの住むまちを安全で安心して暮らせるまちにしていこうと、青パト（青色回転灯付パトロール車）による、パトロール活動の輪が広がっています。

現在久留米市内では、校区コミュニティ組織や企業、一般社団法人などにより約 50 台の青パトが活躍しています。

実際にパトロールをしている人にお話を伺うと「自分たちの取組みが、地域の見守り活動や登下校中の子どもたちの安全確保に少しでもつながれば」、「この地域の人たちが、安心して暮らせるまちにしていきたい」とのこと。

久留米市内でも見る機会が増えてきた“青パト”。パトロールをしている人たちの真剣な様子は、とても心強いものです。

全国的に犯罪の認知件数は減少傾向にありますが、子どもや高齢者が被害者になる事件が話題になるなど、地域における見守り活動の重要性は高まっています。



お互いにあたたかい気持ちになる

ふれあいの会は、久留米市の地域福祉を支える団体の一つです。

訪問や見守り活動は民生委員・児童委員だけに頼っていましたが、孤立死の発生をきっかけとして、より身近な人たちで気にかけていこうと、昭和62年に組織化され始めたのがふれあいの会です。現在、多くの校区で組織され、見守り訪問活動をはじめとした様々な地域活動の担い手として活躍されています。



見守り訪問活動の様子

「来るのを待ってよかったよ」、「話すのは楽しかね」と喜ばれると同時に、ボランティアで活動する人も喜びや生きがいを感じ、お互いがあたたかい気持ちになります。

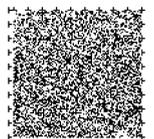
今後も、民生委員・児童委員をはじめ、自治会や校区の各種団体など多様な主体とも連携し、地域住民にとって最も身近なボランティアとして、活躍されることが期待されます。

久留米市社会福祉協議会が取り組むこと

- あいさつ運動や声かけ運動をとおして、お互いに気づき合い、見守り合える関係づくりを支援します。
- ふれあいの会などによる身近な地域での見守り訪問活動が高齢者中心から全分野を対象としたものになるよう支援します。
- 支え合い推進会議をとおして、支え合う意識を高め、日頃から隣近所で見守り合う関係づくりの充実を支援します。

久留米市が取り組むこと

- 地域住民等による、子どもから高齢者までを対象としたあらゆる見守り活動を支援します。
- 地域住民等や事業所の協力を得ながら、地域全体の見守りを行うくろめ見守りネットワークを推進します。



異変に気づいたら連絡を

「ここ2～3日電気がついていない」、「チャイムを押しても応答がない」

異変に気づいた地域住民から久留米市の“くるめ見守りほっとライン”に連絡があり、久留米市社会福祉協議会と連携し、本人の無事を確認しました。両親が亡くなりひとり暮らしになった40歳代の男性は、閉じこもり気味で求職中であることがわかりました。

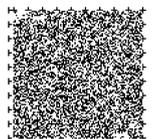
その後、久留米市社会福祉協議会が定期的に訪問し、関係を築くことで、生活上の困りごとを把握できるようになりました。数か月後、本人の努力と生活自立支援センターや民生委員・児童委員との連携の結果、希望する仕事に就くことができました。

今回のように、ちょっとした異変を感じて連絡したことが、自立の一步につながるがあります。

異変に気づいたときには、くるめ見守りほっとラインにご連絡ください。【電話 0942-30-9339】



新聞が溜まっている郵便ポスト（イメージ）



(3) 誰もが集える場の拡充

【誰もが気軽に集える場の不足】、【相談しづらいこと】に対応するため、同じような悩みや経験をもつ人だけでなく、世代や性別に関わらずつながり、相談し合える、誰もが集える場の拡充に取り組みます。

地域住民等ができること

- 誰もが集える場に気軽に参加し、運営にも協力します。
- 自分が参加したサロンなどを周囲の人に紹介し、つながりの輪を広げるように努めます。
- 誰もが集える場の周知に努めます。
- 社会福祉法人・学校・事業所等は、場の貸し出しなど、誰もが集える場の運営に協力します。

施設もボランティアも“お互いさま”

荘島校区では、サロンを開設する場所がなく困っており、そのことを、地域の高齢者施設に相談したところ、場所を提供していただけることになりました。そのお礼にと、今度は施設での皿洗いなどをボランティアが行うことになりました。

サロン活動を行う場所がなく困っていたボランティア、慢性的な人手不足に困っていた施設。つながり、支え合うことで“お互いさま”の関係が広がっています。

また、サロンには、施設の利用者も多数参加し、地域の皆さんとの新たなつながりが生まれています。

地域の皆さんと福祉施設など多様な主体が連携することで、支え合う地域づくりが進んでいます。



中央町みんなのサロンの様子

麻雀で健康に

津福校区にあるサロンでは、毎月1回、麻雀をとおした交流が行われています。

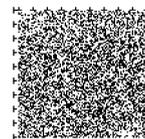
これまでは、参加者が50名を超えるサロンが年4回開催されていましたが、女性が多く、男性の参加者はごく一部でした。



津福今雀健（ジャンケン）サロンの様子

そこで、男性が参加しやすく、手と頭を使って健康でありつづけようとふれあいの会の男性メンバーが企画し、麻雀サロンが始まりました。

参加者は、昔から麻雀をしていたという男性が多く、今では、他の自治会からも参加するなど、少しずつ交流が広がっています。



みんな あつまれ

孤立しがちな子どもたちに寄り添い、活動しているボナペティは、子どもの貧困をテーマにした勉強会をきっかけに、何かできることはないかと、ひとり親家庭を支援する団体に手づくりのおにぎりを贈る活動を始めました。

次の年には、学童保育所の子どもたちと一緒に料理をする活動や、生活困窮世帯へ食品を届ける活動に発展しました。

現在は、御井校区において、地域の誰もが気軽に参加できる“ぎおんさんの森食堂”を毎月開催し、地域の子どもたちや高齢者、障害者など様々な人たちに向けた活動に広がっています。



調理を手伝う子どもたち

帰りにちょっと、寄り道しませんか

知的障害者の親を中心に障害者の生活支援や啓発活動などを行う久留米市手をつなぐ育成会は、他団体と一緒に、障害があってもなくても誰もが集える場として、毎週水曜日に“すいようカフェ”を開いています。

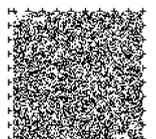


すいようカフェで過ごす人たち

自由に来て、おしゃべりをしたり、ゲームをしたり、勉強したりと、それぞれが思い思いに過ごしています。

「家以外にも居場所があることがありがたい」、「普段交流していない人と話すのは楽しい」と、カフェならではの雰囲気が話しやすさを生み出しており、初めての人もすぐに馴染めています。

色んな思いを抱えていても、みんなが楽しく笑える場所、帰りにちょっと、寄り道してみませんか。



久留米市社会福祉協議会が取り組むこと

- 興味・関心を同じくする地域住民の緩やかな集いの場を掘り起こし、広く周知することにより、隣近所や顔見知りによる支え合いを進めます。
- NPO・ボランティアなどが行う誰もが集える場の把握に努めます。
- 概ね自治会の区域ごとにサロンの設置が進むよう支援します。
- サロンの運営方法を学ぶ機会としてサロン運営者研修などを実施し、世代、性別を問わず参加しやすい、より充実したサロンづくりを支援します。

みんなが楽しくまあ〜るく和になって

田主丸老人福祉センターでは、誰もが安心してくつろげる居場所“楽し〇（まる）カフェ”を開催しています。

参加者は、毎月1回、100円の参加費でお茶やコーヒー、お茶菓子を食べながら、血圧測定や軽運動、講師によるミニレクチャーなどを楽しんでいます。地域のボランティアや、医療・介護の専門職などもいて、くつろいだ雰囲気の中で世間話をしながら、不安や悩みを相談できるように工夫しています。

このような居場所がもっと身近にできるよう、多様な団体などと連携しながら、地域住民の活動を支援していきます。



軽運動の様子

久留米市が取り組むこと

- サロンなどの開設・充実を支援するとともに、様々な人が参画できるよう周知・啓発を行います。
- 同じような悩みや経験をもつ人などが集える場の開設・充実を支援します。

